

5 がっひかりごう

平成31年5月1日 輝保育園

緑が目優しいさわやかな季節になりました。新年度が始まって1ヵ月が過ぎ、子ども達の環境が変わったことによる緊張も解け、徐々にありのままの姿を見せるようになりました。新入園児さんは、友達や保育士のいる生活に、少しずつ居心地の良さを感じ始め、元気に登園する姿が見られるようになりました。しかし、不安を感じる部分が残っている姿も見られます。連休明けには、継続園児でも登園を渋ることも予想されます。ご家庭と連絡を密にとりながら、一人ひとりを温かく見守りいろいろな気持ちを受け止めながら、安心して楽しく過ごせる園生活に繋げていきたいと考えています。

【こどもの日】

もともとは「端午の節句（たんごのせっく）」と呼んでいて、男の子をお祝いしていました。

1948年に5月5日を「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」お休みの日と決められてから、端午の節句をこどもの日と呼ぶようになったそうです。

そのため本来は男の子のためのお祝いだったのですが、今では、男の子、女の子関係なく、子どもたちみんなをお祝いするようになりました。

子どものお祝いだけでなく「母に感謝する」という意味もあったようです。



5月の行事予定

- 9日(木) 避難訓練
- 10日(金) 遠足(4、5才)
(雨天の場合は17日(金)です。)
- 23日(木) 身体測定、お誕生会
- 23日(木) } 尿、ぎょう虫卵検査
- 24日(金) }
- 28日(火) サックス・コンサート
(15:00～)

ナース・レポート

春から夏へとだんだん気温が高くなると、虫たちも元気になってきます。

外で遊ぶ機会も増えてくることから虫刺されによる症状が多く見られるようになります。

《蚊》

蚊に刺されると、まず刺されたところが痒みを伴い、赤く腫れてきます。

こどもの場合は遅延型反応と言って、一旦腫れはおさまるのですが、再び赤く腫れることが特徴的です。

1～2日たってから強く腫れてくることが多く、強い症状がでてから薬を塗ってもあまり効果はありません。

刺されてから30分以内に抗炎症剤と塗布すると効果が期待できます。

《毛虫》

ツバキやサザンカなどに群生しています。接触するだけで、強い皮膚炎を起こします。

皮膚に毛虫の毛が残っていた場合は、セロファンテープなどを貼り付けてはがし、毛を取り、流水でよく洗い流し、ステロイド軟膏を塗布すると、症状が軽く済みます。

《その他の虫》

蜂やムカデに刺された場合は、刺されてすぐに強い痛みがでてきます。

蜂の針が残っていたら、とげぬきでそっと抜き、毒を吸い出します。

ステロイド軟膏塗布したのち、刺されたところを冷やして様子を見ましょう。

蜂やムカデなど以前にも同じ虫に刺されると、稀にアナフィラキシーショックという蕁麻疹や呼吸困難といった重篤な症状が出現する場合があります。

その際は、すぐに専門機関を受診しましょう。

《《《 お願い 》》》

1. クリアケースの中と、お便り帳を毎日確認してください。
2. 投薬依頼がある場合は、必ず職員に手渡しをお願いします。
3. 持ち物や衣類には名前の記入をお願いします。名前が薄くなっていないか、もう一度確認して下さい。
4. 夜更かしをさせず、早寝・早起をし、しっかり朝食を摂りましょう。
5. 毎日入浴させ、清潔にしましょう。

☆☆ 家庭生活 ☆☆

～ 親離れ・子離れ(依存と自立)2～

① 乳幼児期：親が十分に、子どもの甘えを受け入れることが大切です。

子どもが親離れし、自立した大人へと導くためには、乳幼児期に親がしっかりと、甘えさせてあげることが重要になってきます。

自分の希望がすべて受け入れられる、望んだことが満たされることを十分経験させることで、子どもたちは「自分は愛されている、価値ある存在なのだ」と実感します。

この親子の「基本的信頼感」がなければ、自立への第一歩が踏み出せません。

保育園や幼稚園に通い始めのころ、親元を離れる不安から泣き出す子どもを見かけられたことはないでしょうか。

しかし、泣いていた子ども数日通うようになると、握っていた親の手を放し、自分から通えるようになるはずです。

このような姿は、しっかりと甘えさせ、基本的信頼感を築けた証なのかもしれません。

ここで大事にしたいことは、「甘やかす」、「甘えさせる」ことの違いを親がしっかり理解することです。

「甘えさせる」とは、子どもにとって必要な要求に応えることであり、必要か不必要かは、親が判断することが重要です。

★ 不必要なことや物を与えることは、「甘やかす」ことです。

★ 必要なことや物を与えないことは、「放任」、「ネグレクト」です。

「教育力向上福岡県民運動
ホームページ」より抜粋

こどものよゆうす

たんぽぽぐみ
0才児



青い空に新緑が映え、過ごしやすい季節になりました。早いもので入園から1ヶ月が経ちました。まだまだ涙がたくさん出てしまうお友だちが多いですが、その中でも少しずつ表情が変わりお部屋の玩具に興味を示し遊んでくれるようになったりと、保育士やお部屋に慣れてきていることが窺えます。保育士の膝の上に座って遊べるようになったり、気になる玩具の所に行ってみようとして少し離れてみますがやっぱり戻って来る子、興味、探索の気持ちが強く色々な所に行き遊んでいる子など様々な姿が見られるようになりました。離れている時間は保護者の皆様には不安なことも多いとは思いますが、子ども一人ひとりの気持ちや様子を受け止め、その子らしくいられるように保育をしていきたいと考えています。笑顔で登園してくれることを楽しみにしています。

たんぽぽぐみ
1才児



今年度が始まり1ヶ月が過ぎました。入園当初は、おうちの方と離れて過ごすことに不安を感じ、泣いていた子どもたちも、少しずつ泣かずに過ごすことが多くなってきました。まだ、登園時は泣いてしまう子が多いですが、しばらく抱っこしたり、お話していると、落ち着き、遊び始めてます。進級児の中にも、新しい保育者や、保育室、たくさんのお友達に戸惑いを感じ、泣いてしまう子もいます。0才児の頃の担当に甘えられる時間も大切にしながら、楽しく一緒に過ごすことで、新しい担当ともよい関係が築けるようかかわっています。天気の良い日は、たんぽぽ園庭で遊んでいます。滑り台に自分で登ってみようとして挑戦したり、落ちている葉っぱを拾って大事そうに集めたり、虫を見つけて追いかけたり、それぞれに興味のあることを見つけ遊んでいます。

すみれぐみ
2才児



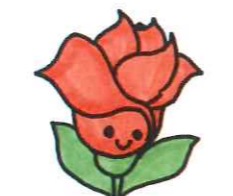
4月は新しい環境に慣れること、好きな遊びを通し、信頼関係を深めることを目標に取り組んできました。新入園児の子は、ふとした時に、大好きなお母さんを思いだし、泣いてしまうこともあります。少しずつ慣れ、笑顔で過ごせるようになってきました。進級児も、新しい環境に、新しいお友達も増え、少しドキドキのようでしたが、自分の思いを言葉にしなが、過ごすことが出来ています。先日、新入園児のお友だちが、寂しくて泣いていると、進級児の女の子が、「大丈夫？ ママがよかった？」と心配し、手を握ってくれました。すると、お友だちの手のぬくもりに安心したように、泣きやんでいました。今はまだ、1人遊びが中心ですが、これからの生活の中で色々な経験をし、友達と遊ぶ楽しさや、相手の思いに気づくことができるようになってほしいと思います。

ちゅうりっぷぐみ
3才児



安心して生活できること、好きな遊びや場所を見つける事を目標に過ごした4月。進級し、初めて尽くしの毎日を過ごすなかで、不安そうな表情で過ごす姿もありました。ロッカーや席を覚えることから始め、自分の居場所があるという認識を安心感へと繋げることで、次第に行動範囲も広がりました。いよいよ、今まで積み重ねてきた力の全てを発揮し、子ども自身が自分で行動を選択していく段階の始まりです。今月から、3才児期の目標である身辺自立の確立に向けて本格的に取り組めます。まずは、夏のプール活動に向け、2ヵ月かけて「衣服の着脱」を中心にを行います。特に、「衣服の前後を自分で見極めること」が最重要課題です。ご家庭でも、練習をお願い致します。ご家庭と園双方で、子ども達に諦めない力と自分でできるという自信を培っていきましょう。

ばらぐみ
4才児



進級して1ヵ月。新しいお友達の名前を呼んで遊びに誘ったり、恥ずかしさを残しながらも、互いに顔をみ合わせ自然と追いかけてこがはまりたりと、温かな友達関係の広がりが見られます。先日、ある男の子が困って泣いていました。すると、女の子数名がすぐにそばに駆け寄り、「大丈夫だよ」となぐさめ、励ましています。他者の姿に気づき、その行動の奥にある気持ちに目を向け、自分達なりに考え寄り添う姿です。人を思いやるというかけがえのない気持ちですが、集団生活を通して子ども達自身の中で育まれていることに喜びを感じます。いよいよ水遊びが楽しい時期に入ってきました。水遊びや汗により着脱する機会が増えます。衣服の前後を見分けることはもちろんのこと、身だしなみを整えることなど社会的なマナーも意識し取り組んでいきます。

ひまわりぐみ
5才児



進級して1ヵ月が経ちました。慣れない環境に戸惑う子もいましたが、手伝いや当番活動にとても意欲的で年長児としての自覚が出てきています。4才児と一緒に給食を食べている時に「お茶碗持って」と優しく声をかけたり、お弁当包みが終わらない子を手伝ったりと年下の子に優しく接する姿もたくさん見られます。また、グループ名を4、5名で考えたり、誕生会で発表する歌をグループ毎に考えたりしました。なかなか決まらないグループもありましたが、お互いの意見を聞き入れながら話し合いを進め、みんなが納得して決めることができました。日頃から鬼ごっこやドッジボールなどの集団遊びを好んで遊んでいますが、自分の気持ちを言葉にして友達と協力して取り組む活動をたくさん経験し、友達と心をつなぐ協力し合う大切さを感じてほしいと思っています。